

自主創造

2019年9月10日

第5号

校長 根路銘 敢

学校教育目標

- 「生きる力」の育成
- 「頭」を鍛える
- 「心」を鍛える
- 「体」を鍛える

実り多き2学期に！

「ジャーネーの法則」と時の重み



おかげさまで大きな事故もなく夏休みを終え、2学期を迎えることができました。夏休みの間、部活動以外では静まり

かえっていた学校ですが、生徒達の元気に活動する姿が戻ってきたことで、校舎も校庭も生き生きと輝いた表情を見せて

います。

さて、2学期は1年で一番長い学期となります。日々の授業については、新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、「自ら学び 深く考え 共に高め合う」生徒の育成に努めてまいります。また、中体連陸上競技大会・駅伝大会、2年生の修学旅行、1年生の職場体験学習など、多くの行事では、生徒達の成長のために意義のある学習や体験活動ができるように、今学期も取組を進めていきたいと考

えております。

生徒達にとって実り多き2学期になるよう、教職員一同、保護者の皆様との協力・連携を図り、生徒一人ひとりに関わり、寄り添いながら指導・支援に努めてまいります。

時の重みを感じて

「ジャーネーの法則」をご存じでしょうか。「ジャーネーの法則」とは、「年をとるほど時間が早くなった」というもので、10歳の子と50歳の大人とは、同じ時間をすご

している50歳の

人の方が時間が経つのを早く感じるというものです。「生涯のある時期における時間の心理的長さは年齢の逆数に比例する（年齢に反比例する）」という法則です。この「ジャーネーの法則」によると、人はなんと20歳で人生の半分を終えているということになるそうです。20歳から80歳までの60年間は、その人にとって、生まれた時から20歳になるまでの20年間分と同じくらいの長さのように感じられるということです。

思います。

しかし、私の場合、最近の夏を思い返そうとしても、昨年、一昨年の夏は何をしていたか、どこに行ったかなど、記憶がすぐによみがえらず、曖昧になってしまっている部分があります。私はすでに58回の「夏」を経験しているため、それぞれの夏が58回の内の1回である、つまり1つ1つの夏の思い出が年を重ねるごとにインパクトの薄いものになってしまっているからです。夏に限らず今年度の1年間は、私にとっては58分の1

ていくに従って、1

年間が短く感じられるような気がするのはいはためではないでしょうか。自分自身を振り返ってみても、子どもの頃の1年間は、今よりもずっと長かったように感じます。子どもの場合は、その分1年間の時の流れが大きく自分に影響しているといえるでしょう。1年間が自分にとって10数分の1である子どもの時期と50数分の1になる大人になってからは、自分自身を変えていく意味でどちらが大きく影響するかは明白です。

きな意味をもつもの

だと改めて思えます。このことから子どもたちが自分を良い方向へと変えていこうと時間を活用することには、私の4倍も5倍も効果があることを意味するということです。

今年度ももうすぐ夏が終わり、秋、冬、春と季節が巡ってきます。今年度の残り3分の2の時間も「頑張る自分」を継続していくことで、子どもたちは大きく自分を成長させていくことでしょう。

1日1日が、子どもたちにとっては、大人より何倍もの重みをもつ時間であることを常に心に留め、9月以降も家庭と協力しながら子どもたちの頑張りを後押ししていきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

カラー版は真志書
中ホームページを
ご覧ください。